

「お祈りと奨学金」本当に感謝します!!

東京バプテスト神学校神学専攻科 舛田栄一（推薦教会 洋光台キリスト教会）

2011年、天城山荘で開催された全国壮年大会で関田寛雄先生の講演を伺い、心温まるお話をとおして「自分も専ら教会に仕える者になりたい」と東京バプテスト神学校の門を叩き、学びを始めました。片道1時間45分を要する霞が関への通勤と繁忙業務のため、レポート提出が毎回遅れましたが、「愛と忍耐とお祈り」をもって13年間励み続けて下さった神学校の諸先生に深謝しています。おかげさまで来年3月には卒業の見込みです。

現在学んでいる専攻科の最後の一年には、「教会実習」と「卒業論文」の課目があり、1月末の締め切りに向けて論文の調査と執筆に励んでいます。無職となり収入が限られる生活ですが、実習と学びに専念する

時間が与えられていること、神学書や資料を購入する経済の必要が「奨学金」や「神学生献金」によって与えられていることは、本当に感謝です。

「尊い捧げもの」をいただくこと、それは時間と命をいただくことであり、神学生として今後の教役者として、救い主イエス・キリストの命に生かされ、しっかりと教会に仕える者とされるよう、祈りのうちに委託されていると受け止めています。お祈りと奨学金、本当に感謝です。



論文執筆のため収集した資料と参考書～只今奮闘中!!

2024～2025年度全国壮年会連合役員及び奨学金委員人事について

高良研一次期会長及び北村慎二奨学金委員長より役員・奨学金委員の指名がありましたので報告いたします。

役員会人事

事務局長：稲川 仁（宝塚教会・副会長兼任）
会 計：高井 透（高崎教会）
書 記：木村 均（大井教会）

奨学金委員会人事

委 員：浦瀬 佑司（札幌教会）
委 員：古田 晴彦（宝塚教会）
委 員：鶴澤 寛（鳥栖教会）
委 員：田口 清吾（岐阜教会）

定期総会で壮年会連合会長及び奨学金委員長が信任された時点で、事務局長、会計、書記及び奨学金委員4名の指名ができませんでした。この度、会長及び委員長より上記の方々指名されましたので、次期総会冒頭で皆さんの承認を受ける手続きを取ります。

■第2回役員会報告 開催：2023年10月14日（土） 事務局長 三室 日朗

- ・8月に4年振りに対面で開催した全国壮年大会のフォロー、及び10月に実施された中間監査を中心とした神学校献金の献金状況と連合の会計状況の報告を共有した。また来年開催される西九州大会（オンライン開催）に対してのサポートを現地とよく協議して進めることを確認した。
- ・「これからの伝道者養成検討」の現状と今後について会長と副会長から、連盟理事会および連盟と壮年会連合による二者協議の報告を受け、その問題点などを話し合い、引き続きこの問題を検討していくことを申し合わせた。
- ・ジェンダー問題などこれからの信徒活動が大きく変化すると予想される中での壮年会連合の在り方についても協議した。

■第2回代表者会議 開催：2023年11月11日（土） 事務局長 三室 日朗

- 今年2回目の会合は4年振りに対面での開催（オンライン参加を含む）となり、以下のことについて協議の場を持った。
- ・「これからの伝道者養成のアクションプランと財務計画」及び「奨学金会計の基本金」について会長・副会長からの報告を受け、協議。
- ・全国壮年会連合役員及び各地方連合壮年会役員選出についての現状報告
- ・信徒活動の今後について、代表者会議構成員全員にお願いしたアンケートに基づいて、現状分析。
- ・全国壮年会連合は「伝道者養成の業への参与」とともに「教会形成を担う」ことを活動の柱としているが、その推進をどのように進めていけばよいのか協議した。

■第2回奨学金委員会報告 開催：2023年11月25日（土） 連盟事務所での現地開催（Zoom併用） 奨学金委員長 北村慎二

- ・理事会報告、全国壮年会連合報告・西南学院神学部報告・奨学金会計報告、中間監査報告
- ・奨学金申請者との面談報告 ・2024年度奨学金申請者の審査 ・返還免除対象者の審査
- ・理事会預かり案件の確認 ・定期報告、返済計画の確認 ・リカレント生の取扱いについて確認
- ・奨学金申請書類等の一部変更 ・奨学金会計事務の効率化について検討 ・奨学金会計の償却引当金について討議

■壮年大会報告書訂正箇所 事務局長 三室 日朗

ページ	行目	誤	正
目次	11	～にも拘わらず、新しい共同体を求めて～	～にもかかわらず、新しい共同体を求めて～
1	8	コロナ過完全消滅	コロナが完全消滅
1	17	礼拝での奏楽や賛美	礼拝での奏楽や讚美
1	27～28	男性合唱団の賛美やコーラス	男性合唱団の讚美やコーラス
2	13	「教会が元気になるには」～にもかかわらず、新しい共同体を求めて～を	「教会が元気になるには」～にもかかわらず、新しい共同体を求めて～」を
43	14	される連立等神学等への	される連立等神学校への



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務：月、水、金 10:00～16:00 ☎+fax:048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp

伝道者養成 & 教会形成

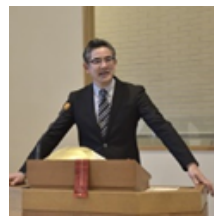
全国壮年会連合 NEWS

第129号
2023/12/20
発行

日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：山田誠一
編集人：三室日朗
Topics Password ▶ sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「熱く燃やされる全国壮年会連合」 吉田真司（相模中央キリスト教会牧師／連盟理事長）



8月の全国壮年大会（於大井教会）に参加しました。ハイブリッド（対面・オンライン）での開催で、様々な事情で会場への直接参加が難しい方も参加でき、コロナ危機の経験を通して新たに開かれた「集まるかたち」でした。大会中、多くの方とことばを交わし、壮年お一人ひとりの信仰・教会形成への熱い思いに触れ大いに励まされました。西南神学部専攻科を卒業し牧師となって早26年目、その間、それぞれの教会現場で教会形成を担ってこられた壮年方から、時に厳しい叱咤、また信仰者の生き様から多くを学ばされてきました。つくづく自分は周りの方々からの様々な支援を受けて、信仰者として伝道者の道を歩いていくことが出来たと感謝したのでした。

バプテストの命は、一人ひとりの信徒が教会形成の主体として参与でき、また新しい担い手となっていけることにあると思います。全国諸教会・伝道所の壮年お一人ひとりの思いと祈りとが、現状の困難

にありながらも、いやその中だからこそ一層熱く燃やされて、教会の元気のもとになり、その熱さに導かれて新しい信仰者が与えられ、そして伝道者となっていく人が起こされていく（自らが伝道者となっていく）、そして教会が元気になっていく、その良き循環が成っていくように願ってやみません。

全国壮年会連合の活動も、現状を踏まえて、発展的に大きな変化を決断すべき局面を迎えています。先の連盟第68回定期総会で承認された「これからの伝道者養成基本理念」に基づくアクションプランが迎える第69回定期総会で審議されます。またそれと並行して全国壮年会連合の皆さまの協議が進められていきます。その協議の上に主の祝福を祈りつつ、またその決断と展開の先に、神学校で学ぶ者たちが多くの友を得て切磋琢磨していく状況が再興されていくことを、そしてその神学生たちの学びと生活環境を祈り支えていく神学生奨学金がますます必要とされ、豊かに用いられて行きますことを願います。

2023年11月現在の神学生奨学金献金・会費実績および対前年度比較

地方連合名	神学生奨学金献金					連合会費				
	2023/11実績		前年同月		対前年額	2022/11実績		前年同月		対前年額
金額	教会	金額	教会	金額		教会	金額	教会		
北海道	202,022	8	214,165	7	-12,143	32,000	3	50,000	4	-18,000
東北	297,461	10	402,100	12	-104,639	102,000	8	50,000	6	52,000
北関東	484,485	8	794,156	13	-309,671	68,000	5	121,000	6	-53,000
東京	1,861,867	22	1,337,519	18	524,348	298,000	11	184,000	9	114,000
神奈川	783,630	11	809,878	9	-26,248	142,000	6	122,000	4	20,000
西関東	311,532	6	254,414	6	57,118	30,000	3	59,000	5	-29,000
中部	314,985	7	321,507	6	-6,522	0	0	0	0	0
関西	468,425	14	426,320	12	42,105	58,000	5	74,000	5	-16,000
中四国	734,600	18	668,950	17	65,650	90,000	10	88,000	8	2,000
北九州	244,000	8	374,845	12	-130,845	36,000	3	62,000	4	-26,000
福岡	843,044	19	1,041,974	20	-198,930	134,000	10	140,000	10	-6,000
西九州	328,270	8	166,000	5	162,270	38,000	3	6,000	1	32,000
南九州	245,400	11	289,600	11	-44,200	54,000	8	95,000	12	-41,000
個人団体等	265,000	0	474,801	-	-209,801	-	-	-	-	-
総計	7,384,721	150	7,576,229	148	-191,508	1,082,000	75	1,051,000	74	31,000
対前年比	97.5%	101.4%				102.9%	101.4%			
個人団体除く合計	7,119,721	150	7,101,428	148	18,293					
対前年比	100.3%	101.4%	(参考:個人団体等を除く献金額です。)							

◎11月末現在、個人団体等を除く金額です。献金は前年同月と同額で推移しています。(対前年度比で献金が100.3%(約+1.8万)、会費は102.9%(約+3.1万)です。ぜひお祈りに加えていただき献金増加と共に、充実した連合活動のために連合会費へのご協力をお願いします。

「主が私を選んでくださった」

秋山 信夫（上尾キリスト教会）



私は、自分の消極的な性格や目的のない生き方を変えたいと思い、友人の誘いもあって、家の近くにあった経堂バプテスト教会へ行きました。教会の皆さんとの交わりや聖書のお話を通して、変わることができなかった自分が、主によって変えられるということを知りました。「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。」Ⅱコリント5：17という御言葉に心打たれ、イエス・キリストを救い主と信じました。18歳の時です。それから、私の性格も人生もすっかり変えられました。虚しかった心が希望と喜びに溢れ、私を変えてくださったイエス様を伝えたいという思いが日増しに強くなり、学生伝道に励みました。

私に献身の思いが与えられたのは、20歳の時でした。学生のキャンプでインドネシアに派遣されていた宣教師が説教をされた後で、「収穫は多いが、働き人は少ないのです。主のために身を捧げて働く人はいませんか。」と招かれた時、ごく自然と「私がここにいます。私を用いてください。」とそこに立ち上がって決心している自分がいました。しかし、同時に自分みたいな気の弱い者が果たして主の働き人になれるのだろうかという不安も起こりました。

丁度、そのキャンプに私の友人を誘っていましたが、彼が主を信じる決心をしてくれました。その時は、誘ってよかったと喜んでいたのですが、彼がバプテスマを受ける時に、私に言った言葉は忘れられません。「なぜもっと早く主を伝えてくれなかったのか。そうすれば、日曜日が休める仕事を選ぶことができたのに。」彼はホテルに内定していたので、礼拝生活ができないことを悔やんだのです。私は、彼は主の福音には関心がないと勝手に決めつけて、誘うことをためらっていたのです。「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」Ⅱコリント6：2であるとの御言葉をいつも心に刻んで生きていこうと深く示された出来事でした。

私が献身の思いを両親に伝えた時、両親はクリスチャンではありませんでしたので、反対されました。「献身して、食べていけるのか。」と私の将来を案じてのことでした。そして母は私を親戚にあたる浅野順一牧師の家に連れて行き、献身を思い留まらせようとしていました。浅野順一牧師は母の思いと私の思いを聞いて、にこにこしながら、母には「神様が養ってくださるから息子さんのことは安心しなさい。」と勧め、私には「神様が導いてくださったその献身の道をしっかりと歩みなさい。」と勧めてくださいました。私にとって、浅野順一牧師との初めての面会は、とても大きな励ましとなりました。

大学を卒業後、私は学生伝道に導かれ、日本キャンパス・クルセードの主事として4年間働き、若者への伝道の大切さを経験しました。それから、「わたしの羊を飼いなさい。」ヨハネ21：17との御言葉が示されて、東京バプテスト神学校で学んだ後、立川教会で1年間教会主事として働き、それから室蘭教会で7年間牧師として働き、現在の上尾教会で35年間働いています。自分でもこれほど長く主の働きを続けることができることは、正直、思ってもみませんでした。幾度となく、自分の言葉や行いで信徒の心を傷つけ、辛い思いをさせてしまったことがありました。自分は牧師には向かないのではないかと、自己嫌悪に陥ったこともありました。しかし、その都度、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」ヨハネ15：16との御言葉に支えられてきました。また、神の憐れみと、信徒の皆さんの祈りによって、支えられてきました。主の導きと招きに感謝しています。

「これからの伝道者養成」について、壮年会連合がやろうとしていること（その1）

全国壮年会連合副会長 豊永義典

いつも伝道者養成のことがら、特に神学生奨学金献金へのご理解とご協力を頂いていることを心から感謝します。連盟理事会では2021年3月に「これからの伝道者養成検討委員会」を設置して、「これからの伝道者養成基本理念（2023年）」案を作成し、本年2月の連盟総会で承認され、その後この理念をベースに、「これからの伝道者養成アクションプラン、及び財務基本計画」の作成検討が、2024年2月の連盟総会承認を目指して進められています。これらの検討作業には、壮年会連合の役員も加わってきましたので、この間の壮年会連合ニュースや、全国壮年大会での報告の時間や報告書などでお知らせをしてきましたから、これらの概要についてはご理解頂いていることと思います。

上記の検討期間は全国でのコロナの感染時期と重なり、壮年会連合の定期総会を対面で行なうことが出来ず、必ずしも十分な議論が出来ませんでした。

しかし連盟理事会は、上記の新基本理念およびアクションプラン・財務計画のなかで、壮年会連合に対して具体的な協力を要請しており、それに対応するには私たちは2024年度の定期総会で規約を改定し、承認していくことが必要です。そこで本号から3回にわたって、①連盟理事会はこれからの伝道者養成をどのように考え、壮年会連合にどのような協力を要請しているのか、②その要請に対して壮年会連合役員会はどのように考えて対応してきたか、③そして来年の私たちの総会にはどのような提案を考えているのか、について解説していきます。ニュースを読まれた時点で感じられた疑問や意見がありましたら、是非事務局にメールや電話を届けて下さい。受け取った時点で役員会から回答をお送りします。またこのことが来年の総会への提案を整えていくことにつながります。ご協力をお願いします。

1. 伝道者養成基本理念2023年版およびアクションプラン・財務基本計画の概要と私たちへの要請

○新基本理念では、「バプテストの特長を生かした教会形成」、「伝道者」理解の確認と「牧師を含む教役者の働き」の重要性、「求められる神学教育／神学校の役割」、とともに「求められる連盟施策」が提案されています。特にバプテストらしい信徒と牧師の協働（教会の働きを相互に分担）による教会形成が謳われ、信徒一人ひとりが伝道者であるという理解のもとで、信徒の多様な賜物がキリストの体として組み合わされ、教会の働き（説教や牧会も）を担おうと呼びかけています。

○前項の「求められる連盟施策」のひとつとして、神学校献金（神学生奨学金献金）の新たな可能性を探る—これまでの神学生奨学金に加えて、東京・九州両神学校の経常費支援や牧師の継続研修等の奨励、献身者の掘り起こし（青少年伝道）などに用いる可能性の模索—が挙げられました。

2. 伝道者養成に関する基本理念（2023年）に基づく、「アクションプラン」と「財務計画」

○アクションプランでは、2024年度から「伝道者養成に関する委員会」（特別委員会）を設置して、伝道者養成に関する連盟施策を立案・推進することとし、そのメンバーに壮年会連合のメンバーも加わって働きを担い、諸教会の意識変革（信徒一人ひとりの献身の深まりから教役者に専心する献身へ）・研修運動の推進、三つの神学校と宣教研究所の連携、等を進める考え方となっています。

○財務計画の一つとして、連合立等神学校支援の仕組みの構築が挙げられ、2025年度から神学校献金（神学生奨学金献金）に「連合立等神学校への支援（具体的には年350万円）」が提案されました。

上記の連盟理事会からの提案への、壮年会連合役員会の考え方と対応は次号（その2）に示します。